

「日本学校心理士会年報」実践論文および展望原稿作成・投稿要領

1. 本年報に掲載される実践論文および展望（以下論文）は、学校心理学・学校心理士に関する未公開の論文とする。未公開の論文とは、学術および一般雑誌、大学や研究機関等の紀要、一般図書に掲載されたことのない論文をいう。
2. 実践論文の構成は、表題、著者氏名と所属、英文表題、英文著者氏名と所属、英文要約（キーワード含）、日本語要約（400字程度、キーワード含）、Ⅰ.問題（または目的）、Ⅱ.方法、Ⅲ.結果、Ⅳ.考察、引用文献からなることを原則とする。
3. 展望の構成は、表題、著者氏名と所属、英文表題、英文著者氏名と所属、英文要約（キーワード含）、日本語要約（400字程度、キーワード含）、Ⅰ.問題（または目的、はじめに等）、Ⅱ.本論、Ⅲ.まとめ、引用文献からなることを原則とする。
4. 論文は、1ページ24字×42行の2段組みで、図表を含め、刷り上がり10ページ以内とする。
5. 論文原稿は、A4の白紙に、縦置き・横書きで、日本語論文の場合、1行24字、42行を1ページ（刷り上がり2段組みの1段にあたる）として鮮明に印字する。図、表、写真等は刷り上がりの大きさを考慮して、字数と行数に換算して所定のページ数以内になるように考慮する。
6. 論文原稿の作成にあたっては、次のことを留意する。
 - (1) 本文は原則として「である」調で書き、常用漢字、現代かなづかいを用いて、簡潔、明瞭に記述する。
 - (2) 本文中の章、節、項には、それぞれⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ…、1・2・3…、(1)・(2)・(3)…、の番号で表記する。
 - (3) 本文には、各ページの下部中央にページ番号を打ち、図、表、写真等の挿入箇所を指定する（図、表、写真等は本文中に組み込まない）。
 - (4) 図、表、写真等は1枚ずつ印刷し、刷り上がりの大きさを指定する（縦、横の長さをmm（ミリ）単位で。判読ができる大きさであることを確認する）。また、図、表、写真等に解説が必要な場合には、それぞれの下方に簡潔に記述する。図表間の重複を避ける。
 - (5) 表の題目は、表の上部に、「表1 ○…○」のように、図、写真等の題目は、図、写真等の下部に、「図1 ○…○」のように示す。
 - (6) カタカナは、原則として、日本語化した外国語の記述のみに用いる。
 - (7) 外国語は、外国人名、外国の地名、適切な日本語訳のない術語、書名やテスト名などにのみ用いる。
 - (8) 数字は原則として算用数字を用いる。0～9までは全角、10以上は半角を用いる。
 - (9) 句読点は「。」「，」とする。
 - (10) 略語は一般に用いられているものに限る。ただし、必要な場合には、初出の時にその旨を明記する。例：DA（Developmental Age）
 - (11) 引用文献は、論文の最後に、著者名のアルファベット順に、一括して挙げる。引用文献の記載は、『学校心理学研究』の記載の仕方に準じ、①著者名、②刊行年次、③表題の順とする。単行本の場合、表題の後に、版数、出版社名（外国の場合は出版社所在地も）を記し、雑誌論文の場合は、表題の後に、雑誌名、巻数、ページを記す。英文誌の場合、雑誌名をイタリック表記とする。なお、引用文献は孫引きではなく、投稿者が直接当該論文にアクセスしたものでなければならない。また、論文の読者がアクセスできるものを用いる。ホームページなどを引用する際は、信頼性のあるもの限り、必ずURLと閲覧日を記載する。

Kling, K.C., Hyde, J.S., Showers, C.J., & Buswel, B.N. 1999 Gender differences in self-esteem: A meta-analysis. *Psychological Bulletin*, **125**, 470-500.

文部科学省初等中等局特別支援教育課 2013 障害のある児童生徒の教材の充実について

URL http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/1339114.htm
(2014年4月1日閲覧)

水野治久・石隈利紀 2004 わが国の子どもに対するソーシャルサポート研究の動向と課題—学校心理学の具体的展開のために— カウンセリング研究, **37**, 280-290.

- (12) 表題の英文訳を付すことが投稿時に必要であるが、英文要約は査読が終了し、採択が内定してから提出してもよい。ネイティブスピーカーに校閲を受けることが望ましい。
 - (13) 公表されている尺度の全体または一部を使用する場合は、その出典を明示する。
 - (14) 和文要約と英文要約の末尾に、5語程度のキーワード（両者とも内容と配列が同じであることを示す）を示す。
 - (15) 投稿論文は、「学校心理士倫理綱領」に則ったものであり、人権に配慮した記述でなければならない。事例研究の場合は、個人（支援対象者など）が特定できないような配慮が必要である。
7. 論文の投稿にあたって次のことを留意する。
- (1) 論文の投稿にあたり、その第1著者は学校心理士スーパーバイザー、学校心理士または学校心理士補の資格を有する者でなければならない。
 - (2) 投稿に際して、投稿票（本会のホームページからダウンロードできる）、ワープロ原稿（本文と図・表・写真等）3部を編集委員会が指定する期日までに提出する。投稿原稿は書式に従った完成稿でなければならない。
 - (3) 投稿票には、表題、著者名と所属機関名（著者が複数の場合は全員について）、並びにそれらの英訳、投稿に際して推薦者がある場合は推薦者の氏名と所属支部名を記す。
 - (4) ワープロ原稿には、著者名・所属機関名は記さない。
 - (5) 投稿にあたっては、共同研究者の同意を得ておく。
 - (6) 公表されている尺度等を使用するにあたっては、出典を明記し、著作者の許諾を得ることが求められている場合は、許諾を得たことを本文中もしくは註として明記する。
8. 投稿原稿の採択と掲載の決定は、投稿された原稿を複数の専門家による審査（査読）に基づいて編集委員会で行い、論文原稿執筆者（著者）に通知する。
9. 審査（査読）結果に基づいて原稿を修正した際には、修正対照表を作成の上、修正原稿と共に提出する。（日本教育心理学会HP参照：<http://www.edupsych.jp/>修正対照表について）
10. 採択掲載が決定し、その通知を受けた時は、必要な修正・加筆のうえ、指定された期日までに、印刷された完成原稿および英文要約と、その原稿を記録した電子媒体（FD, USB, CD等）またはEメール添付によるファイルを提出しなければならない。期日までに提出されない場合は、投稿・掲載を辞退したものとみなす。
11. 著者に抜き刷り20部を贈呈する。それを超える分の費用は著者の負担とする。
12. 本年報に掲載された論文原稿は返却しない。
13. 本年報に掲載された論文の著作権は、日本学校心理士会にあり、無断で複製または転載することを禁ずる。
14. 投稿論文の送付先および不明な点についての問い合わせ先は、以下の通りである。
〒113-0033 東京都文京区本郷2-32-1 BLISS本郷ビル3階 「日本学校心理士会年報」編集委員会宛
FAX: 03-3818-1588 e-mail: office@gakkoushinrishi.jp

「日本学校心理士会年報」編集委員会制定：2011年3月

一部改定：2013年3月、2014年5月、2015年5月、2017年3月